

平成28年度「学校評価」結果（概況報告）

盛岡第二高等学校

【調査結果】

昨年度との比較

「肯定的な評価」(注1)の比率の過年度比較

三者の比較

H28 生徒・保護者・教員間の比較

質問項目	28年度 (H28.12.5～12調査)			27年度 (H27.12.7～14調査)		
	生徒 %	保護者 %	教員 %	生徒 %	保護者 %	教員 %
	斜体・ゴシック体=65%未満 下線部=90%以上			斜体=75%未満		
1 教育目標の周知	86	87	95	84	88	100
2 わかりやすい授業の実施	79	74	100	78	74	95
3 学習指導の徹底	72	61	95	73	61	86
4 家庭学習・課題の点検	75	68	86	81	67	70
5 応用力のつく授業の実践	68	65	74	65	59	76
6 生活のきまりやマナーの遵守	75	90	74	81	90	84
7 生徒会活動や部活動の活発さ	94	96	98	96	94	97
8 勉強と部活動の両立	73	72	81	76	72	81
9 生徒への安心安全の支援	79	83	98	83	81	100
10 登下校時等の安全指導	83	83	91	80	79	94
11 希望進路の実現	85	83	98	84	76	95
12 適性を考慮した進路指導	83	77	98	83	72	97
13 保護者と連携した進路指導	74	71	95	73	66	95
14 二高に入学「よかった」	79	92	100	86	91	(注2) 100
15 安全・清潔な学習環境の保持	80	94	93	88	95	97
16 生徒の相談への丁寧な対応	79	80	100	81	77	100
17 生徒の居場所づくり	78	84	98	82	86	97
18 保護者と連携したPTA活動	76	70	95	72	69	95
19 地域への貢献	84	83	91	85	85	89
20 学校徴収金の額	85	92	93	(注3) 84	94	97

生徒 -保護者	生徒 -教員	保護者 -教員
斜体・ゴシック体=±20以上の差 斜体=±15以上の差		
-1	-9	-8
5	-21	-26
11	-23	-34
7	-11	-18
3	-6	-9
-15	1	16
-2	-4	-2
1	-8	-9
-4	-19	-15
0	-8	-8
2	-13	-15
6	-15	-21
3	-21	-24
-13		
-14	-13	1
-1	-21	-20
-6	-20	-14
6	-19	-25
1	-7	-8
		-1

(注1)選択肢「a大いにそう思う」「bそう思う」を合わせて「肯定的な評価」、「cあまり思わない」「d全く思わない」を合わせて「否定的な評価」とした。

(注2)項目14の「職員」は「法令・規範の遵守」 (注3)項目20の「生徒」は「適性や興味関心に応じたコース選択」

【分析1】 全体的な傾向について

昨年度と比較して、肯定的な評価が90%以上の質問項目は1項目増加し、65%未満の質問項目は1項目減少している。生徒・教員の評価においては、肯定的な評価が65%未満の質問項目は無く、保護者の評価においても1項目減少した。

【分析2】 評価が高かった項目、評価が改善した項目について

「7 生徒会活動や部活動の活発さ」は三者ともに90%以上の高い評価。部活動については、国体での活躍や全国大会への出場等の結果を残しているだけでなく、どの部活動も生徒の自主性を活かした活動が展開されている。

「14 二高に入学良かった」は今年度も保護者から高い評価を得た。伝統校に学ぶ誇りを感じつつ、伸び伸びとした高校生活を送っていることが高い評価へつながったのではないかと考えられる。

「1 教育目標の周知」は、学校要覧等に教育目標を明記し、職員もその意識のもと教育にあたっている成果と考えられる。

「15 学校は学習環境の整備に努め、安全で清潔な環境の保持に努めていると思いますか」「20 学校徴収金の額」は今年度も高い評価を得た。15については、日常の清掃の徹底、街頭指導等の成果と考えられる。

【分析3】 評価が低かった項目、評価が分かれた項目について

【改善策】

「2 わかりやすい授業の実施」教員と生徒・保護者の評価が分かれた。なるべく分かりやすく、さらに応用力もつけられるような授業を心がけている教員側と、初めて学ぶ項目に難しさを感じる生徒の差とも考えられる。

どの生徒も関心をもてるような授業のさらなる工夫に努める。

「3 学習指導の徹底」教員と生徒・保護者の評価が分かれた。教員が感じている以上に生徒の「もっとわかるようになりたい」という思いが強いと思われる。保護者の評価が昨年度同様65%未満と低い。生徒の将来(進路)に対応できるよう、徹底して指導してほしいという保護者の願いであろう。

授業だけでは十分理解できない生徒に対して、学習相談や個別指導をさらにきめ細かく実施していく。

「5 応用力が身につく授業の実践」は最も評価が低かった。1・2年生での基礎固め、2年生での新しい科目からの基礎学習、3年生での応用力涵養という違いも影響しているのではないかと考えられる。

「興味関心を持たせる授業」「教えて考えさせる55分授業」の充実をさらに図っていく。

「8 勉強と部活動の両立」生徒と保護者で75%未満であった。生徒の評価は昨年度より3%減少しており、全体からみても低い評価となっている。

学習と部活動時間のバランスを考え、生徒がしっかり学習する時間を与えることも必要。

「13 保護者と連携を取りながら、進路指導を行っていると思うか」不十分ながら昨年より改善。面談をきめ細かく実施したほか、進路学習会の開催、進路通信の発行等、情報提供を図っているが、さらに改善の余地あり。

進路学習会への保護者の参加率向上、進路希望に応じた情報提供などについて、さらに工夫に努める。

「18 PTA活動において、保護者との交流・対話が十分かつ活発に行われていると思うか」教員と保護者の評価が分かれた。PTA総会やPTA研修旅行などの行事について、参加への呼びかけを行っているものの参加者数が低迷していることが一つの原因と思われる。

PTA行事の内容、開催時期、連絡方法等について、さらなる見直しを検討する。